

日本共産党 姫路市会議員団

市会報告 2018年 第3回定例会

議員団控室 姫路市安田4-1 TEL 221-2046 FAX 284-5890

メール info@jcp-himeji.com

共産党姫路 検索



谷川
まゆみ

谷川まゆみ 検索

ブログ



森
ゆき子

森ゆき子 検索

ブログ



苦
瓜
かずしげ

苦瓜かずしげ 検索

ブログ



50年連続の
黒字決算は

市民のために活用を

姫路市の平成29年度一般会計決算は、実質収支57億4,004万円で、昭和43年以来50年連続の黒字決算となっています。赤字をつくらないことは大事なことでありますが、家計と違いそれだけで評価されるものではありません。何よりも、市民から集めた税金等がどれだけ市民のために使われ、市民のために還元されたのかが問われます。

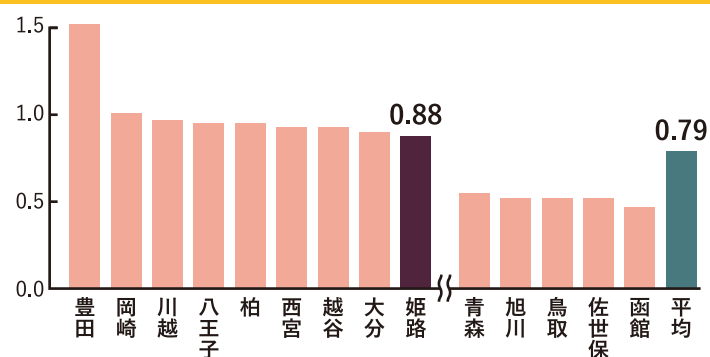
姫路市の財政力指数は0.882で、回答のあった中核市中9番目に位置し、平均の0.79を大きく上回っています。その一方で、普通会計※1目的別歳出の民生費の割合は39.5%で、中核市平均の41.6%を下回っており、土木費の割合は15.6%で、中核市平均の11.9%を超えています。姫路市は長年にわたり民生費の比率が中核市平均より低く、土木費の比率は中核市平均より高いという状況が続いています。

こども医療費助成制度は所得制限があるため、平成29年度実績で3歳から就学前の2割負担の子どもは、5,190人です。小学1年から中学3年までの3割負担の子どもは、6,850人となっています。約85%の子どもたちは

無料となっていますが、所得制限を撤廃し、全ての子どもたちを対象とするには後約3億円あれば十分可能です。また、小中学校へのエアコン設置も求められています。

姫路市の高い財政力は、もっと住民福祉の向上にこそ使うべきです。これらの理由により、議員団は平成29年度一般会計決算認定に反対しました。

財政力指数比較表※2(中核市) 姫路市議会事務局作成資料より



※1 姫路市の普通会計とは、一般会計・母子父子寡婦福祉貸付事業・奨学学術振興事業・財政健全化調整を合わせたものです。

※2 財政力指数とは、必要とする一般財源に対して、現実に収入される税収入がどれだけあるかを示します。「1」に近いほど強いとされています。

2019年度 予算要望懇談会を開催

8月4日、姫路市市民会館において2019年度へ向けて予算要望懇談会が開催されました。参加者からは市政に対する各方面の要望がありました。これらの要望事項は議員団として要望書としてとりまとめ、10月24日から始まる各局との予算編成に対する会派要望で実現を迫ります。



要望を受ける議員団

酷暑から子どもたちの命と 健康を守るための緊急申し入れ

姫路市議員団は、去る7月27日、市長と教育長に対して、エアコン設置を求める、「酷暑から子どもたちのため生命と健康を守るための緊急申し入れ」を行いました。双方から、「前向きに検討したい」との回答がありましたが、その後、本会議でも取り上げました。

教育長答弁では、「9月中に空調設備導入支援業務委託に着手し、導入手法も検討し、スケジュールも決定していきたい」としました。学校衛生基準が定めた普通教室の室温は、17℃～28℃となっています。引き続き、一刻も早い対応を求めていきます。

教育長に申し入れる議員団



9月議会の質問から

姫路市総合交通計画は市民参画で



森ゆき子議員

現在の姫路市総合交通計画は2020年度までとなっており、来年度から計画についての総括・検証が始まります。公共交通は特にバス利用者が13年前に比べ1日7,000人も減少しています。次期計画の策定に当たっては、以下3点に留意し、条例の制定も視野に入れ、市民参画で進めるよう求めました。①2013年施行の交通政策基本法で、日常生活に必要不可欠な公共交通の確保など規定している、②「駅やバス停が遠く、交通が不便」と判断する交通空白地帯の基準が、駅から1km・バス停から500m以上という現在の姫路市の基準は遠すぎるため、アンケート調査など利用者の声を反映させ、見直す必要があること、③岐阜市では、地域交通網の形成は住民と見直しをはかり、地域公共交通条例を制定していること。

答弁では、「次期計画策定に向けて、しっかりと利用されるように、住民の意見を吸い上げていきたい。当然、アンケート等も視野に入れながら進めたい」としました。

姫路市の地域医療と介護の確保を



苦瓜かずしげ議員

(仮称)県立はりま姫路総合医療センターの基本設計概要が8月下旬に発表されました。高度専門・急性期医療の提供、34診療科目、736床の病院で、姫路駅東約800メートルの姫路市所有地に2022年度上期に開院する計画です。

この病院は、3年前に開院した県立尼崎総合医療センターと同様に、平均入院日数が10日間程度と見込まれ、1カ月間に2,000人以上が退院することになります。

これら退院患者を受け入れる回復期病院と在宅医療、介護体制の確保を図るため、地域包括ケアシステムの構築に向け、市独自の医療計画を策定するよう求めました。

市は兵庫県の保健医療計画に合わせて介護保険計画、高齢者保険計画の調整を図りながら策定している。県や医療・介護の関係機関と連携し、急性期を脱した患者の受け皿体制について検討を進めると答弁しました。

姫路市立小中学校の適正規模・適正配置は情報公開・市民参画でいねいな議論を



谷川まゆみ議員

本市の適正規模・適正配置審議会は既に3回開催されており、国の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、本市の小中学校の適正規模・適正配置についての基本方針を答申しようとするものです。私は、文教・子育て委員として傍聴してきましたが、審議会のあまりにも強引で拙速な運営に疑問と怒りを感じ、以下3点について一問一答で質しました。

①審議会の進め方は適切だったのか、②小中

学校の適正規模・適正配置は、情報公開・市民参画でいねいな議論を、③小規模校のデメリットと言われている「切磋琢磨が困難、社会性が育たない」は本当なのか

松田教育長は、「配慮が不足していたと感じる」。また、「多様性というのは非常に大切だと思う」と答弁の中で述べました。最後に、「この市立小中学校の適正規模・適正配置は誰のための、何のために行うのか」との質問に、「やはり教育の受益者である小中学生、そして保護者のために行うもの」と答弁しました。

議員団としても、引き続き情報公開・市民参画でいねいな議論が行われるよう求めていきます。

危険ブロック塀撤去支援の実現

6月18日の大阪府北部地震で建築基準法に適合しないブロック塀が倒壊し、通学途上の小学生が犠牲となる事故がありました。これを受けて、9月議会において危険ブロックの除却を進める「危険ブロック塀等撤去支援事業」が補正予算として可決しました。

総額は、国、県からの補助金を活用して6,100万円となっています。

小中学生の通学路に面する個人住宅は3分の2補助、上限20万円で100カ所、民間の幼稚園、保育所は3分の2補助、上限90万円で10カ所、社会福祉施設が補助3分の2、上限160万円で20カ所となっています。この事業によって民間施設の危険ブロック塀の撤去の促進が期待されています。11月1日から申請の受付が始まります。

請願に対する各会派の態度

○賛成 ×反対 ※3人のうち1人は賛成

請願内容	日本共産党	市民クラブ	自由民主党	公明党	新生ひめじ	創政会	新しい風ひめじ	日本維新の会	結果
公契約条例の制定による適正賃金・労働条件の確保と地域経済の振興を求めることについて	○	×	×	×	×	×	※	×	不採択
最低補償年金制度創設の為の意見書の提出を求めることについて	○	×	×	×	×	×	※	×	不採択
最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の提出について	○	×	×	×	×	×	※	×	不採択

力を合わせ頑張ります

団長

谷川まゆみ ● 文教・子育て委員会

幹事長

森ゆき子 ● 総務委員会
● 姫路福崎斎苑施設事務組合議員

団員

苦瓜かずしげ ● 厚生委員会
● 議会運営委員会